

一語一言

六十九

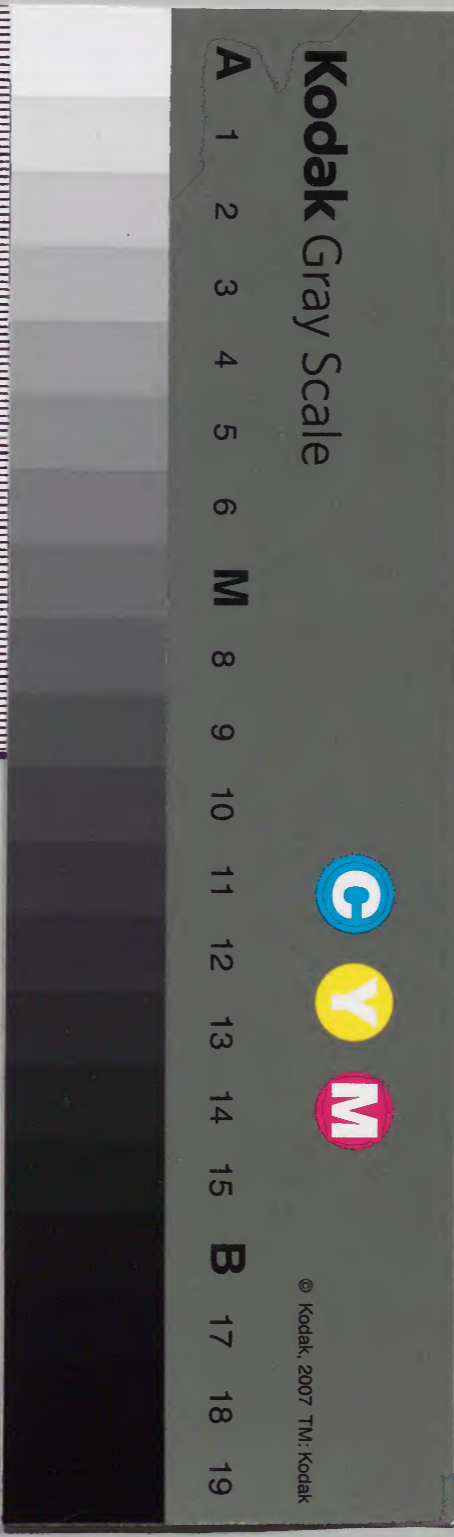
拘
曼筆雜考

曼筆雜考

共七十

庫	文	門	內
三三函架	七冊	三六九三號	和書類

內閣文庫	
番號	和 36093
冊數	70 (69)
函號	212 276



一 諸一言卷之六十九目録

一 英上蝶 北村季彦墓 画猫虎人 上野宗長寺

一 谷中宗園塚 米價 人事 菓鴨菊 二系

一 僧石禪社 延日支干 六郷橋 菊樓

一 屏風活判 二系 屏風御藏 観音 山水画 昭

一 寛文十年 幸美記 酒井 口 五福志 食火 雞

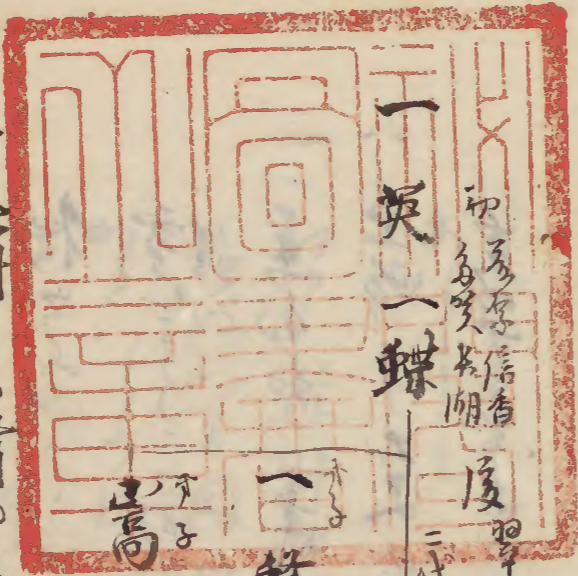
一 廣澤書 車留の礼 衣食住の如き 各礼の事

一 馬くら根葱 宝氣和分 古交角の傍



一 寶曆名代百三十四人 吳名

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



印 多喜信春
多喜長明

後

四半 篤信
如美

一 英

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 舟

一 舟

一 舟

一 舟

一 舟

一 舟

一 舟

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

一 蝶

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

高之

一 北村市子吟の巻 此の巻 西暦...

再昌院法印李吟先生

花もろ 齋り...
よの世の世の...
あは

宝永二乙酉年二月十五日八十二歳卒

花のついでにふたりの涙の文のついでに
み流るる花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに

白き生のみついでに涙のついでに
今年の新花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに
ついでに涙のついでに花のついでに
ついでに花のついでに涙のついでに

おに計府の古帳のこゑりる

宋
一 宍和春 藤野五代の部、日本國康保傳告二
とあり、佩文韻府音画傳卷の十二

一 宍和常 書史云、余閱書白首無魏造墨之故、
自西晉、梅景の時に、かゝのこゝの所、
宋亮の造墨を、
有設筆行音
同、
包七各

一 藤原國 河原院 郡屋 の、
を、
竹原の、
を、
竹原の、

檜、
の、
の、
の、



笠
の
の

一 屋代 弘安、
の、
の、

祝 壽 莫 祝 松 栢 松 栢 老 寿 頌

を

祝 壽 莫 祝 壽 与 壽 壽 始 七 末

長 安
解 大 神
ノ 陽
國 色 天
又 五

填溝壑

秋多苦旱秋也(正)月出(年)七

光波凜

石何代何人の畫かゝるを詳くは
十力あり和
所中より

一 山水志帖

画程諫ノ印アリ

○ 趙孟頫字善長姑蘇人畫師之王也董北
死善字孟頫得省保京運之符筆法也

遇他人

○ 吳天麟陽鄉工人物山水多受業於沈
石田先生弘治庚戌陽鄉字八十國書其
以於圖在

○ 沈初士教祥存人別字善長南性州山水記
竹有古人之風官至都園主樹之在子
○ 李善藏物見人繪畫輒能摹仿雖百
物像形無不出其字畫如也

史大方金陵人子家題其書云生中備畫舸
繫神都早傳世其畫澤壚好似石形城
外系滿溪碧香首若然湖

金門獻伯乞之楓林草堂圖丹筆寫
獸倬有佳妍

吳士冠字相如蘇州人山水畫危巖有
別趣其書法為中郎書魏花卷乞

唐志契數五唐陸德生工山水善摹
六法之溢

安唐譽無咎名錫人以茂才為太學生
皆山水法法自畫子入淹籍淋、超物物
外自以田樂

林有麟仁南蹄素多松柏筆力多入
通文應仕有山水好雅故卷可接軌宗
人

姬允用法精萬唐同人山水人物能仿
古精工秀 疏在屏妙同

已建極字用五金陵文學也工山水

中川河邊安座 市田里之形貌を記す
上田より下りて出陣新庄より大田迄なり 河原より
安座より大田迄なり 中川河邊安座 市田里之形貌を記す

一 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略
柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略

一 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略
柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略

一 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略
柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略

一 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略

一 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略
柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略

一 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略 柴田の記略

一丁卯二月朔日喉迄後の部... 一里舎をこら
その秋 駝鳥の如く 冠のふんをもち 首の毛を...
紅の... 羽を... 緒の...
距... 羽... 中... 骨... 骨...
る... 骨... 骨... 骨...
體... 骨... 骨... 骨...
食火雞... 骨... 骨... 骨...

單松後差梨春物品目錄

嘔ハカ慈ハル登ル見ル 一名火噴鳥 近年紅夫人貢

咬嚼吧國大鷄其狀略類雞而大高三
四尺能食火燼及小石其糞乃炭或石
也人近則起而為嘔

具原篤信大和本草駝鳥首年紅表ヨリ長崎
ニ来ル大鳥之火ヲ食ス又銅鉄ヲ食フ脚大之
皆本草ニ所レ言ノコトニ

カスワル 蛭 沿く火 食鳥ナリ 大ヤ四尺分り
本草 所謂駝鳥ナルニ

真國カリノ如シ



一日素業因氏所託廣澤氏書也

本若川寺深庵飛鳥宮下之味

燦・安・坊・障・山・石・丹・色・楮・雲・下

案・案・古・來・而・進・元・九・善・男・子・若

似・雀・翁 外・在・河

有・身・以・歸・津

是・書・而・在・名・而・乞・夕・乃・佩・楮

尺・和・此・新・温・津・絲・是・進・若・多

羨し如使爲書編

六八

十年滄海寄萍蹤
遠近江山思業重
分明河秋一葉天
滄涼月夜十年心
應斷生事中年夢
三情多况相思何
處家越山仙
鴻樹蒙茸

西亭
己亥
中
新
廣
澤
情
也
也
書
少
飯
付
甲
店
秋
月

七

縣印
知
愔

字曰
公
蓋

予、
仲
を
九
の
名
也

一
予
の
道
つ
く
ぬ
時
は
道
を
り
し
れ
を
し
る

少綿ありしものほの修れば心ひやしは 昔うたがひの歌

一 上野山初木付はさくらさくら不根葱あり 芝根根葱の

こゝく白くあゝ〜〜時表と上る西園とよ六根葱の

白く〜葡萄のさきほし此言の也 伊予 小徳と業流

れ〜の〜

一 江戸鞠何よ早めの言井さる風 伊予 小徳と業流

後乃末の誓ふ

一 目には見えぬ鬼も少ひきてま神の如く〜山は山のさかへ

一 あり人 古の書をり〜来く〜あは 伊予

上村同夜字

修徳園 佐久郎 神村

一 名和にて乙年 今和者 夜芝 数百程

四人 〇月

本宮 念一 卯

石原 軍一 卯

水山 九 花

赤林 山 多 卯

石中 甲 人 〇 卯 卯

一 三三拾伍丁

永正二年三月廿

新庄系孫氏後世由左

右之石中 土納戸

一 三三拾伍丁

永正二年

世系表乃 横山郷地

石久部 神村

一 三三拾伍丁

山系百拾四丁

一 三三拾伍丁

山系百拾四丁

一 三三拾伍丁

山系百拾四丁

右之石中 土納戸

土人高畑上中 土納戸

達上 土納戸

建久元年二月

和山寺

大江國持守殿

本の古の書の伝を承りて建久元年中の事あり
ては人の世も亦如世の人の事ありて
二百年よりあるの如きなりと申すは
さし申すにふしあるかかきも
あり 上日あり

一 建久元年申す迄名代一人あり

建久二年巳
の事あり

海子 建久の市
坂町 今時
龍子 一時
後子 入
中候 入
建久 入
坂町 入

海子 耶那
多成 子
坂町 今時
坂町 入
坂町 入
坂町 入
坂町 入

新書控印部

五ノ一
後 雷 信 右

後 雷 信 右
山田丁三ノ一

千代木
一ノ山 信 右

福丁二ノ一
馬ノ山 信 右

下谷
伯文 信 右

折本
山ノ山 信 右

今者 信 右

海川 信 右
山ノ山 信 右

後 雷 信 右

山田丁三ノ一

千代木

福丁二ノ一

馬ノ山

伯文

折本

今者

海川

信 右

山ノ山

山田丁三ノ一

千代木

福丁二ノ一

馬ノ山

伯文

折本

今者

海川

信 右

山ノ山

山田丁三ノ一

千代木

福丁二ノ一

馬ノ山

伯文

折本

今者

海川

お徳楽法をう

おこりききる

おゆき

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

おぼろ

山田後光

神通文治

西條利房

歌歌伊柳

かろく信房

院信房

河内西宮

三浦力持

信公信房

紅毛西宮

長瀬公房

信房

右各取二年六月十八日原高自筆の書に

東宮の書 西宮の書 三浦の書

百字に人々向ひ有る事 差入り有る人

あつた人々を 西宮の人々を 西宮の

事 西宮の事 西宮の事 西宮の事

西宮の事 西宮の事 西宮の事 西宮の事

西宮の事 西宮の事 西宮の事 西宮の事

厚

西宮の事 西宮の事 西宮の事 西宮の事

西宮の事

西宮

丁卯土月廿八日 西宮の事

文正四年丁卯六月十日

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document, written vertically on the right page of the manuscript.

